

琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議

かわら版

かわら版

かわら版 一創刊号一

事務局：京都府企画環境部企画総務課事業推進室

TEL:075-414-4373 FAX:075-414-4389

Email:kikakuso@pref.kyoto.lg.jp

平成18年11月発行

三重県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・三重県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県

琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議とは？

○流域におけるネットワークの形成の必要性

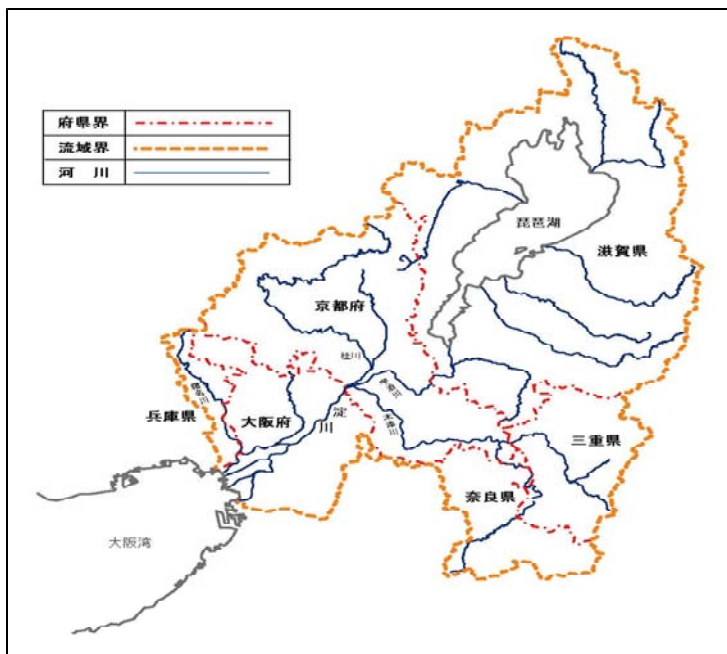
水質保全や生態系保全など総合的な水環境の保全については、流域での一体的な取組が重要です。

このため、琵琶湖と大阪湾を結ぶ流域の全域に呼びかけ、住民をはじめ行政、企業、NPO、研究機関等のすべての主体の相互理解と協働のもと、水環境保全のネットワークを構築し、連携を進める必要があります。

○琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議

この認識のもとに、流域全域の6府県（三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県）の実務担当者による「琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議」を設置しました。

府県間の連携した取組とともに、住民、NPOなど多様な主体との協働による取組を進めていくこととしています。



【各府県担当課】

三重県政策部地域づくり支援室
滋賀県琵琶湖環境部水政課
京都府企画環境部企画総務課事業推進室
大阪府政策企画部企画室
兵庫県県民政策部政策局ビジョン課
奈良県企画部資源調整課

ホームページ：<http://www.pref.kyoto.jp/kyonomizu/10400031.html>
流域府県の水に関わるイベントなどの情報

三重県

【淀川水系上流域での取り組み】

三重県伊賀県民センターでは、淀川水系の最上流域である木津川源流域の水質の向上、景観の保全など多様な課題の解決にむけ、伊賀地域の川に関係する行政機関で木津川流域リフレッシュ事業推進協議会を設立し、協働で流域圏づくりに取り組んでいます。

【水環境啓発紙芝居の作製】

木津川流域リフレッシュ事業推進協議会では、木津川水系の水環境の改善にむけて、子供たちが水環境についてわかりやすく学習していくための教材として、木津川源流域である伊賀を舞台に川や森の働き、水環境の保全などを題材にした「紙芝居」を3作品作製しました。



1. うな太の大冒険

2. ほたるのお祭り

3. 森からのおくりもの

現在、貸出を行っていますのでご希望の方は下記までご連絡ください。

【問】木津川流域リフレッシュ事業推進協議会 TEL0595-24-8003

滋賀県

「琵琶湖流域ネットワーク委員会」の取組紹介

滋賀県では、平成12年に「マザーレイク21計画（琵琶湖総合保全整備計画）」を策定し、県民、行政をあげて、琵琶湖を健全な姿で次世代に引き継いでいく取組を進めています。

「琵琶湖流域ネットワーク委員会」は、身近な河川ごとの「流域協議会」を核としながら、緩やかなネットワークを構築することにより、地域の水環境保全の取組を支援するとともに、琵琶湖の総合保全を推進することを目的に、平成16(2004)年2月に設立されました。

各流域で行われている河川清掃や水質調査、環境学習などに関する情報交換や連携事業などを実施しているほか、県内外での研修・交流活動なども行っています。

特に、平成17年度から（財）淡海環境保全財団と共に実施している「琵琶湖一周調査隊～琵琶湖・流域一斉水環境モニタリング調査」では、県民、学生、NPO等の参加の下、琵琶湖岸の環境調査（水質や生物等）を行い、「琵琶湖水質マップ」に取りまとめ、今後の活動や行政の取組に生かすこととしています。

今後も琵琶湖を取り巻く水環境保全の取組を推進していきます。

組織や活動内容などの詳しい内容を掲載したホームページも開設していますので御覧ください。

→ <http://www.pref.shiga.jp/d/suisei/network/index.html>



「琵琶湖一周調査隊」



京 都 府

京都府では、水環境保全に関する様々な取組を進めています。今回は、南丹広域振興局（管内：亀岡市、南丹市、京丹波町）での取組を御紹介します。

南丹広域振興局では、南丹地域における河川や水に関わる交流と連携を通じた地域づくりを進めるため「なんたん水辺ネットワーク事業」の企画公募を行いました。

その結果、今年度は、「NPO京都の文化を映像で記録する会」に委託し、管内の保津川（桂川）開削400周年を記念して取り組



まれる「保津川クリーン作戦」を中心として保津川のごみ問題や自然保護、環境保全についての地域での様々な取組を取材、撮影するとともに、上流、下流の小学生などを対象に上映会を実施することとしています。

この取組を通じて、児童や地域の人々に川との関わり、川を巡る環境保全について考える契機としていただくとともに、桂川や淀川流域にもこうした活動が広まっていくことを期待しています。

(京都府南丹地域)



大 阪 府

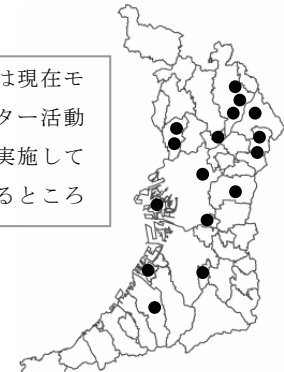
大阪府では水循環再生「水との復縁」運動の一環として「おおさかレインボウぷるじゅくと」を実施しています。レインボウのレインは雨、ボウは宝を意味しています。雨を宝として、有効に大切に使う社会を進めようという思いで、平成17年度から取組を進めています。

事業は雨水タンクを製造・販売している企業に無償で自社製品を提供してもらい、一般募集した府民モニターにその製品を実際に使ってもらい、意見やアイデアを集積して企業にフィードバックすると同時に、雨水利用をきっかけとした環境活動を地域で広げていただくといった仕組みです。

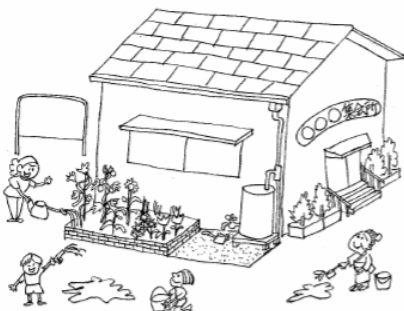
現在、活動の中心となる NPO が学校や環境団体等と協働で府域16ヶ所に実践の場を創出し、貯えられた雨水を打ち水や緑化散水、清掃等に使っています。

これからは、教材や事例集を作成し、更なる活動の輪を広げて行きたいと考えています。

●は現在モニター活動を実施しているところ



(雨水モニターマップ)



(事業イメージ)



(雨水学習セミナーの様子)



ワークショップや各種セミナーを実施しています。



兵庫県

兵庫県では、今年の夏、入門者の皆さんに6週間にわたって水を大切にする生活を実践していただく『節水道場』を開催しました。入門者は県民から家族単位で公募し、26世帯に協力いただきました。道場の目的は、住民の皆さんの節水行動によって普段の水の需要がどの程度減らせるかを調べることです。入門者の皆さんには、『無理せず続けられる節水』を考え、試していただきました。

結果は右下のグラフのとおりです。一人一日あたり平均180ℓと県の年間平均(約250ℓ/人・日)を大きく下回っています。節水意識

の高い入門者ばかりでしたので、県全体にここまでの節水を期待することはできませんが、節水意識の向上で相当な水需要抑制が可能であることがわかりました。また、会合では、入門者に集まっただき皆さんの技を披露していただきました。できることを地道に取り組むことが効果的で、長く続けるには

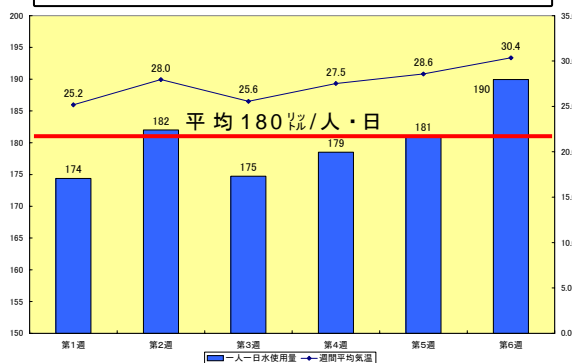


無理しないことと家族の協力がポイントのようです。

今後は、県下に成果をPRし、水を大切にするライフスタイルを啓発していきたいと考えています。

【節水道場の概要】

- 7月1日～8月11日(6週間)
- 神戸市、阪神間各市、姫路市から家族単位で26世帯が最後まで挑戦。参加者は、6週間にわたって《水を大切にする生活》を実践
- 期間中2回の会合(交流会、技自慢)を開催
- 最後まで続けた家族を節水名人に認定



奈良県

琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議が発行する「かわら版」の創刊号ということですので、奈良県の「淀川流域」についてご紹介したいと思います。



奈良県には、大きく分けて4つの流域(淀川、大和川、紀の川、新宮川)があり、このうち、淀川流域は面積で約1/7、人口で7%(約10万人)程度を占めています。奈良県の淀川流域は、北端の一部分に住宅団地等がありますが、大部分は「大和高原」と呼ばれる、ゆたかな自然環境を有するなだらかな高原状の地域で、その特性を活かして茶、花き、野菜等の農業が展開されています。また、曾爾高原、香落溪、室生寺、柳生の里など、史跡・景勝の地にも恵まれ、ハイキング等に訪れる方々も多いとなっています。

また、この地域は、名張川、青蓮寺川、宇陀川などいくつかの支流の源流となる、淀川水系の最上流域であり、本県のみならず阪神地域等の重要な水源地域ともなっています。